

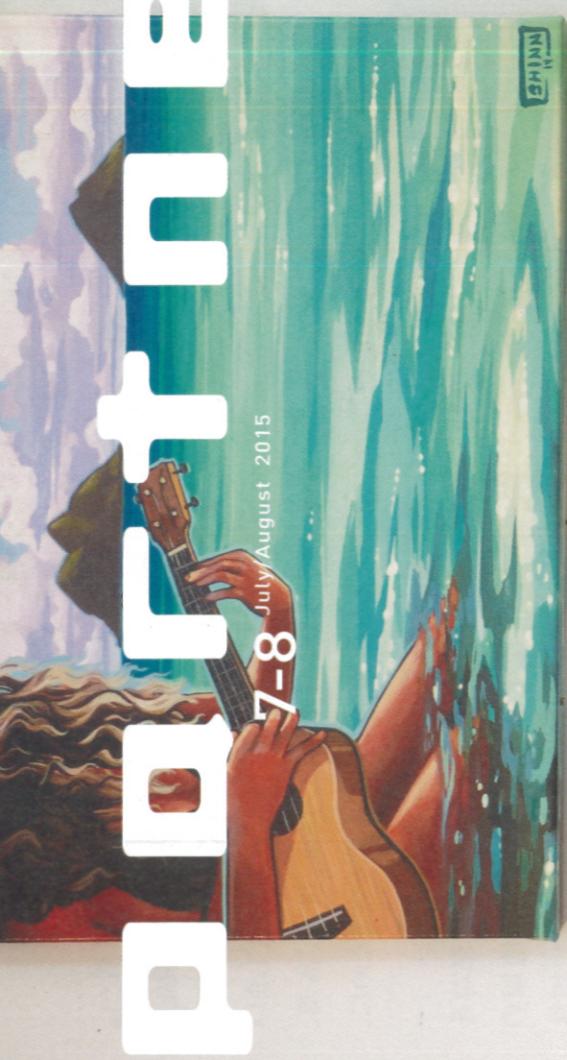
「パートナー」次の豊かさへ、一緒に。

ノスタルジックで新しいハイ。

特集 オアフ島、
オールドタウンは
新しい。

Feature; Oahu Island, The New Experience.

DC CARD



新しい。 オールドタウンは

Feature
*Oahu Island,
The New Experience.*

オアフ島北海岸のノースショアは、冬場になれば大波が押し寄せるサーファー憧れの地、そして豊かな自然に魅了されたアーティストたちが多く住む土地でもある。その玄関口・ハレイワは、古きよきハワイの面影を残すオールドタウンとして知られる。独特の文化を育むその町に今、新たな息吹が生まれようとしている。

写真・栗林成城

コーディネート・ジャネット・マイヤール

ノースショアのビーチにて。地元の人たちが寛ぐ光景が見られる。右／オールドタウン・ハレイワを代表するプレートランチの店『グラス・スカート・グリル』。



特集

Photo by Shigeaki Kuwaharai coordination by Janet Mayerle

ハレイワ

Haleiwa

時代を超えて愛される、
オールドハワイと
ビーチカルチャー。



5



4



3

1／カラフルな外観で統一されたショッピングモール『ノースショア・マーケットプレイス』。2／『グラス・スクート・グリル』のフィッシュブレート(\$14.95)。3／バーベキューをする人たちでぎわう週末のハレイワ・ビーチパーク。4／家々のポストもアートのひとつ。



8



6



5／ハレイワの入口にはフードトラックが並ぶ広場がある。6／波の状況を見て、海へと向かうサーファーたち。7～9／ハワイを拠点とする「クオリティビーブル」の創立者、ジョン・エスケラー氏（写真7）がオープンしたライフスタイルショップ『ナンバー808』。ジョンさんがセレクトしたメンズウェアや小物、インテリア雑貨に交じって、彼が集めたアンティークのコレクションも並ぶ。



7



9



Oahu Island,
The
New
Experience.

ノースショアの魅力に取りつかれたひとり、クリークリトル氏は、波の写真で知られる写真家。彼の撮影法は、波の内側からブレイクする瞬間をとらえる独特のスタイル。世界的に知られる存在となり、最近ではハワイ政府観光局が発行するノースショアマップの表紙に使われた「ウミガメのキス」の写真を目にした人も多いだろう。

2才のときにアメリカ本土から家族でオアフ島に移住し、ノースショアに住み始めて20年ほど。8年前から波の写真を撮り始めた。

「ある日、妻が波の写真を買ってきたのを見て、自分がサーフィンをしているときに見ている波はもつとすごいから、ぜひ見せたいと思つてカメラを持ち始めました」とクラークさん。

特殊な防水加工を施した

が盛んだった時代の名残りが今もこの地に残つているからだろう。

当時、ポルトガルやブルジル、日本から移民たちがきて集落を形成していたが、サトウキビ産業が衰退すると、人々も去つていった。現在は工場跡地を利用したファクトリーショップなどができるものの、手つかずのまま放置されている所も多く、おかげで開発の手を逃れた自然が昔の姿を

ホノルルからクルマで「カメハメハ・ハイウェイ」に入ると、車窓にはパインアップル畑やサトウキビ畑が見えてくる。15分ぐらい走り、ゆるやかな坂を下ると目に飛び込んでくる青い海。間もなくノースショアの玄関口・ハレイワに到着だ。ワイキキから約1時間のドライブで、一気にオールドハワイにタイムスリップしたような錯覚に陥る。かつてサトウキビ産業

11



青空の下、海を眺めながらランチをしたり、海岸線に沈む夕陽を見たり、ビーチでの楽しみ方は人それぞれ。



Oahu Island,
The
New
Experience.

カメラは、重さ約10ポンド（約4.5kg）。サーフボードごと体を持っていかれて重量級のカメラとともにフインで乗りこなす。「できれば365日、ずっとここを離れたくないと思うほど美しいんです。それを教えてくれたノースには本当に感謝している」

もともとハレイワ・タウンセンターにあった彼のギヤラリーが、今年4月に新しくオープンしたショッピングモール「ハレイワ・ストア・ロツ」内に移転した。

「ここは自然のパラダイス。僕の写真を見て興味を持つたら、ぜひビーチに足を運んで、自然の美しい瞬間を目でとらえてほしい」

そんなクラークさんのギャラリー同様、ハレイワ・ストア・ロツにオープンした『グリーンルーム』では、ビーチカルチャーにつわるアートを扱っている。なかでも最近注目されているのが、ノースショアのビーチでの日常的な光景を独創的な色づかいで描いたイ



12



11

11~13／クリスティ・シンさん(写真13)のアトリエにて。『VANS』とコラボレートしたスニーカーは日本限定のモデル。ノースショアの海や自然をテーマにしたイラストは、彼女のライフスタイルそのものを表現しているかのよう。アトリエの前にはマンゴーの木など植物が生い茂り、その向こうに海が見える。



9



8



6



5

1・2／ハレイワ・ショッピングプラザにあった『グアバショップ』もハレイワ・ストア・ロツツに移転。おみやげにしたいオリジナルの雑貨なども充実。3・4／オーガニックソープの『パブルシャック・ハワイ』初の専門店では、バス&ボディ用品がフルラインアップ。オーナーのホリー・ハーディングさん(写真4)。



13

10

新しいものも
すぐに溶け込む
オールドタウンの
懐の深さ。



4

3



Oahu Island,
The
New
Experience.

いろいろなモノがいらなくなりました」とも言う。そして「家の前にアボカドやマンゴーがなるんです。そういふた植物もそうだし、周りにはいくつもの素敵なビーチがある。こんな恵まれた環境があればほかには何もいらないと思うようになりました」と続けた。

彼女の作品が販売されている『グリーンルーム』もオープンしてすぐに入られたという。「最初、開発の話を聞いたときはビックリしましたが、でき上がって行ってみたら、オールドタウンの雰囲気になじんでいたけれども、でき上がったて魅力的だった」。多くの人が訪れるのもむしろ歓迎しているという。

「ここではクルマのクラクションを聞いたことがないほど、いくら混雑してもイラマするがないんですね。訪れた人が、アロハビリッツを知るいい機会になると思いますよ」

自然に閉まれたオールドタウンとそこに住む人々。訪れた人たちの心を引きつけてやまないハレイワの魅力は、時代も関係なく、受け継がれていくようだ。

「ここにはクルマのクラクションを聞いたことがないほど、いくら混雑してもイラマするがないんですね。訪れた人が、アロハビリッツを知るいい機会になると思いますよ」

自然に閉まれたオールドタウンとそこに住む人々。訪れた人たちの心を引きつけてやまないハレイワの魅力は、時代も関係なく、受け継がれていくようだ。

5~7／ビーチカルチャー＆サーフカルチャーのアートにフィーチャーしたセレクトショップ『グリーンルーム』の店内。オリジナルのイラストやウエアなどがそろはばか、地元アーティストの作品が多く扱っている。荒木賢太さん(写真5)ほか日本人スタッフが常駐している。

ラストレーション。カナダ・トロント出身のクリスティ・シンさんが手掛けたものだ。クリスティさんは、ノーリーズショアのビーチで毎年開催されるサーフィンコンテスト『バンズトリップルクラウン・オブ・サーフイン』の2013年度のボスターに採用され、一躍有名となつた。

「サーフィンが好きで、大学を卒業してからオーストラリアやニュージーランドにも行つたけれど、雑誌で見て以来、憧れていたノースショアを初めて訪れたときに、自分が探していたのはここだと思って」から、住み始めて10年ほどになるという。「ここの人たちはみんなストレスのないストライフを送つていて、本当に優しいんです」と彼女。アーティストも多く、それぞれ自分のライフスタイルを大事にしているのも魅力のようだ。早朝から活動し、夜が早いというのも、彼女のライフスタイルにあつているという。

「ここに住み始めて、いろ